

はじめに

自己紹介など

1 初めの頃の体験

新聞社との交渉体験で学んだこと、被害をナマで聞いてもらうことの大切さ

2 交渉——東京新聞との交渉。坂本弁護士一家の内ゲバ報道

- ① 発端
- ② 交渉が行き詰まったとき
- ③ 取材源秘匿に対してどうするか
- ④ 編集局長の率直な謝罪
- ⑤ おわびと訂正

テレビ局との交渉体験にもふれておきたい。新聞とテレビの組織の違い

3 法的手続

差し止めと、高額賠償の現状

4 報道と人権、発生の構造とメディア改革の“可能性”

- ① 被疑者のこと
 - ・警察情報 一方的依存の構造
 - ・松本サリン事件に例をとってみると

- ② 被害者のこと

- ・メディア・スクラム——
 - 桶川ストーカー事件の経験
 - 福岡4人殺人事件

5 メディア不信に乗じたメディア規制

- ① 中川秀直氏（元官房長官）が失脚した事件
- ② 自民党が規制に乗り出したきっかけとなる検討会の議論
- ③ 個人情報保護法、人権擁護法
- ④ 「あるある大事典」と総務省による規制—放送法改正問題
- ⑤ ブレア首相周辺への金融疑惑についてのBBC差し止め問題について

6 提言——権力規制によらない改革は可能か？

- ① 捜査情報の構造変革
- ② 経営者と編集幹部
- ③ 現場記者の変革
- ④ BPOの課題
- ⑤ 報道の自由と市民の知る権利

拙著の主張テーマの核心

7 市民の課題

- ① 長崎市長銃撃事件と20年前の朝日新聞銃撃事件
…市民と民主主義にとって容易ならざる時代
…メディアと市民の相互対立にまかしてよいときではない
- ② 激励と批判の手紙を書こう
メディアは、回答をすべき
- ③ ランビック、弁護士会のような自主的機関を育てる
- ④ まだ希望はある、というか…。